令和7年第2回清瀬市教育委員会定例会会議録

令和7年第2回清瀬市教育委員会定例会が令和7年2月25日(火)午前9時30分に招集された。
出席委員、議事の概要は次のとおり。

- 1 日 時 令和7年2月25日(火)午前9時30分
- 2 場 所 研修室3 (オンライン)
- 3 付議案件 別紙議事日程のとおり
- 4 出席委員 坂 田 篤 (教育長)
宮 川 保 之 (教育長職務代理者)
尾 崎 啓 子 (委員)
鈴 木 美 紀 (委員)
中 村 清 人 (委員)
- 5 事務局 南 澤 志 公 (教育部長)
大 島 伸 二 (教育部参事兼教育指導課長)
大 野 英 武 (教育企画課長)
宮 本 央 子 (教育企画課学務担当課長)
宮 野 将 史 (教育指導課教育支援担当課長兼統括指導主事)
山 口 由 希 (図書館長)
- 6 書 記 若 野 俊 佑 (教育企画課主事)

令和7年第2回清瀬市教育委員会定例会

令和7年2月25日(火)
研修室3(オンライン)

定例会

日程第1	会議録署名委員の指名(宮川委員)		
日程第2	教育長報告		
日程第3	教育委員報告		
日程第4	議案事項2	清瀬市立図書館運営規則の一部を改正する規則
について	図書館長
日程第5	報告事項1	令和7年清瀬市教育総合計画マスタープラン実
行計画と重点事業について	教育企画課長
日程第6	報告事項2	清瀬市立中学校部活動の地域連携・地域移行に
向けた推進計画中間まとめについて	教育部参事
日程第7	報告事項3	清瀬市立学校における集団宿泊的行事検討委員
会中間まとめについて	教育支援担当
課長
日程第8	報告事項4	清瀬市立図書館資料収集方針の一部を改正する
訓令について	図書館長
その他			

※日程第4及び日程第8について、資料不備のため、議案及び報告を取り下げとなった。

開会

坂田教育長が開会を宣言

教育部長 日程第4 議案事項2 清瀬市立図書館運営規則の一部を改正する規則についてと、日程第8 報告事項4 清瀬市立図書館資料収集方針の一部を改正する訓令については、内容を精査する必要があるため、今回は取り下げをさせていただき、改めて定例会に上程をさせていただきたい。

日程第1 会議録署名委員の指名（宮川職務代理）

宮川職務代理を指名

日程第2 教育長報告

坂田教育長 先日、「清瀬市立図書館の設置に関する住民投票条例」の制定請求に基づき、条例制定を審議する臨時議会が開催され、審議の結果、否決となった。

また、教育委員表彰を実施し、今年度は16名の児童・生徒、3名の社会人の方が受賞した。被表彰者から写真を提供してもらい、スライドショーで上映するような新たな取組を実施した。来年度以降も少しずつ改善を行い、参加された方々の心に残るものにしていきたい。

教育委員会B訪問で芝山小学校を訪問した。清明小の栄養教諭を招いたチームティーチングが行われていた。規模の小さい市ではあるが、優れた人材資源があふれていると実感した。横展開を進め、資源の共有化を図りたい。

2月は清明小をはじめ、数校の展覧会へ参加した。そのなか、第八小学校の展覧会が強く印象に残っている。図工室の照明を暗くし、ブラックライトで教室を照らすなど、テーマに掲げる「異空間」を感じることができた。展覧会について、他校の教員の参加が多くないというのが現状であり、今後横展開を進めるためのアイデアを模索していきたい。

青少年問題協議地区合同会議へ出席した。全国的に見ると、SNSを通じて犯罪に関わる中学生が増えているといった報告があった。全国学力調査の結果より、携帯電話（スマートフォンを含む）を所有している小学6年生は約80%、中学3年生においては99%という結果がでている。そのうち、「家庭でSNSルールを定めているか」といった質問に「定めていない」と回答した割合は小学6年生で8.9%、中学3年生で16.3%であった。家庭力を高めるのは簡単なことではないが、社会総がかりで課題解決していきたい。学校運営協議会もその一助となる。

日程第3**教育委員報告**

鈴木委員

長期総合計画策定審議会へ出席した。現在、基本理念について議論している。委員会では、「30年後を見据えた基本理念にしたい」、「子どもたちもその基本理念をイメージでき、行動できる基本理念にしたい」、「自然やみどりを大事にしたい」、「人とのかかわりあいを大事にしたい」などの意見があった。

子ども子育て会議へ出席した。当初、子ども計画、子ども子育て支援事業計画を3月までに策定予定であったが、子ども計画については7月へ延期とした。

中村委員

なし。

尾崎委員

なし。

宮川職務代理

教育委員会表彰式へ参加した。子どもの笑顔、保護者の誇らしげな姿を見ることができた。課題としては、毎年同じ表彰対象で表彰されている方の取り扱いについては検討する必要がある。また、表彰式というのは顕彰と表彰といった2つの側面がある。顕彰という意味付けを強調していきたい。

芝山小学校B訪問へ参加した。研究事業、研究協議ともにさらなる工夫があってよい。

中央審議会を傍聴した。会議では次回の学習指導要領の検討を進めている。大切になるのは、現行の学習指導要領において、達成できている部分と出来ていない部分を明確にすることではないか。

16日、東京都主催の美術展覧会に参加した。今回は清瀬市の作品を確認できなかった。生まれ育った地域・社会・自然に愛着を持ち、清瀬の良さを伝えていただきたい。

健全育成、薬物乱用防止を継続的に発展させていく必要がある。

教育委員会A・B訪問の成果と課題について教育委員間でも議論を行い、発信していくべき。

ウェルビーイングの内容を掘り下げ、命の教育として更に何をやれば良いのか、議論をしていく必要がある。

日程第5**令和7年清瀬市教育総合計画マスタープラン実行計画と重点事業について**

大野教育企画 (資料説明)

課長

尾崎委員

全体を通じて、現状値等の数字が、客観的に大きいのか、小さいのかが見ただけでは判断できないため、示し方を工夫したほうがよい。

中村委員

子育て支援事業では、清瀬第十小学校に新築される学童クラブについて記載されている。より多くの児童が学童に通うことができることについて評価する。預かり時間について、保育園や幼稚園と変わらない時間に子どもを預けられるようにすることで、子育て支援事業としての効果

が一層生み出せるのではないか。

鈴木委員

重点事業の一覧の中で、小中連携の推進事業の内容に「実践的な研究を進めていく。」と書かれている。ここでいう実践的な研究がどういったものであるかを的確に学校が把握しているかが重要である。

マスタープラン実行計画では、方向性12が「日本の良さ、清瀬の魅力を理解し、内外に向けて発信する力の育成」となっている一方で、方向性14は「体験を通じた郷土文化の継承と郷土愛の醸成」となっている。しかし、「関連する事務事業」で記載されている内容がどちらも同じであり、違和感を覚える。また、読書感想文コンクールにおいては、指導者への研修も積極的に実施してほしい。

宮川職務代理

方向性については今後も検討していく必要があるだろう。また成果としてのアウトカムをどのように測定していくかが課題である。

日程第6

清瀬市立中学校部活動の地域連携・地域移行に向けた推進計画中間まとめについて

大島教育部参事

(資料説明)

中村委員

部活動の拠点校方式はやりたい部活動が自校にない場合、他校に参加できる面で良いと感じる。ただ、同じ学校の仲間でするのも意義のあることでもある。

鈴木委員

子どもの成長という観点では、自校での人間関係も大事だが、自校外での人間関係も大事である。ただし、移動時間のロスと、地域団体を利用した場合の内申書などでの扱いは、予め検討が必要になるだろう。

尾崎委員

事故だけではなく、指導者の適正も考え、指導者研修を適切に実施してほしい。拠点校方式は安全確保、指導者不足にも資する。

宮川職務代理

部活動は子どもの夢やあこがれを育む重要な取組である。学校部活動が学校教育から切り離されることは、子どもの社会性を育むことは新たな課題でもある。部活動の地域移行はまちの文化を高めるという点でよりよい社会が作られるものと思う。子どもが社会に関わることで様々な学びの機会を得られることから、地域とのつながりのある取組を検討してほしい。

坂田教育長

部活動には生活指導の側面がある。部活動は、学校の誇りといった非認知能力を育む面もあり、地域が誇りを高める役割を担う。そのためには時間が必要であり、どの様に仕組みをつくり、運営をするのかが一番の課題である。新しい公共の場であり、文化・風土を変えることにもなるため時間を掛けてじっくりと議論をすることが必要だ。

日程第7

清瀬市立学校における集団宿泊的行事検討委員会中間まとめについて

宮野教育支援担当課長

(資料説明)

中村委員

子どもが企画から関わるなど、ワクワクする活動を大事にしたい。

宮川職務代理

子どもたちが楽しさを実感できるように考えていかななくてはならない。事前学習において何を学ぶかをより精度高く、内容の充実策を各学校に期待したい。

学校ごとにビジョンを持ち、教職員が共同して知恵や発想を活かしあうことで、お互いにレベルアップを図ることができ、喜びや満足感を得られる。学力テスト SP 表を活用して傾向分析を行い、学ぶ楽しさ実感させることで、もっと成長を実感できるようにできる。

具現化するためには何をすれば良いか、教育委員会が懇談機会を設けるなど、組織的に支援していく必要がある。

坂田教育長

この件については、子どもがかわいそうだとか、思い出づくりが無くなるなどの様々な意見をいただいた。大切なことは、子どもの立場に立ち、育ませるべき資質能力は何なのか、問題解決能力やコミュニケーション能力など、学校がしっかりと考える教育の原点を見直す機会とされたい。

閉会

坂田教育長が閉会を宣言

閉会 午前 11 時 50 分

令和 7 年 2 月 25 日

上記のとおり会議の顛末、大要を記し相違ないことを証する。

清瀬市教育委員会

教 育 長

教 育 委 員